

品川歴史館「城南空襲を語り継ぐ」に140名を超える参加者賛同者も続々。品川の空襲を知らせる大きな一歩になりました。

戦争に向かうような政策が進む中、戦争への不安、平和のために地元の戦争の事実を知りたい」という方が増えたのだと感じました。今年は11時開場にしましたが、「午後から用があるので午前中に見に来ました。」という方がたくさん見え、午前中もたくさんの方が真剣に空襲の体験画や体験の作文を読んでいる姿が見られました。「品川が焼け野原になった」のDVDを始めるころには椅子が足りない状態に。歴史館の職員の協力で1回の椅子を運んでもらって開会。

展示風景



村川さんは、城南空襲を大きな目で見つつ、大井町や浜川、青物横丁方面のようすや、朝鮮から来た労働者が働いていたことなどお話してくださいました。



建物疎開で家を壊され、母の実家へ疎開するも後から来るはずが24日の空襲で兄を失った阿部さんの手記は、4人が分担して朗読。

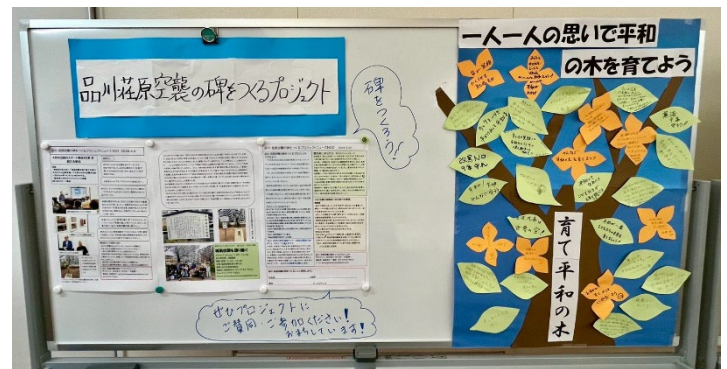
の家を建物疎開で壊され下神明に移転するも空襲が心配の父が1年生で学童疎開を体験した田村絵本をスライドにして読み聞かせを。最後に碑をつくるプロジェクトから、戦争がない未来のために「品川荏原空襲の碑を」と訴え終了。



大井町



証言DVDの後、墓参りから駆けつけた住田さんは、81年経っても忘れられない弟の死と庭で弟を約父の姿が忘れられない。二度とこのようなことがないように語りました。



- ・品川の空襲は、焼失面積は大きかったが、焼けて残っていないので、忘れられてしまう。
- ・建物疎開で家を失い、引っ越した方がたくさんいたことを知った。
- ・死者が少ないといってもなくした家族の思いは重い。証言は胸に迫る。
- ・今、記憶を残しておかないと忘れられてしまう。等の感想をたくさんいただきました。

親子連れで、絵や説明を丁寧にみる姿が何組も。写真のOKが取れていないので載せられませんでした。

会場の準備を呼び掛けるとたくさんの方が駆け付け、あっという間に完成。気持ちがこもった集会でした。